東北６県と整備局が創る
河川・ダム・砂防・海岸事業の新たな連携
「個性の大地」

第２９号（平成２２年　２月）
東北地方整備局河川部
地域河川課　発行

整 備 局 情 報

『平成 21 年度河川局所管補助事業完了検査を終えて』　　地 域 河 川 課

今年度の完了検査は 9 月上旬の青森県を皮切りに 12 月上旬にかけて、各県（仙台市含む）概ね 4 日間の行程で実施し無事終了いたしました。当初は 11 月上旬までに終了すべく日程を組んでおりましたが、台風 18 号（H21.10.8）による被害への対応もあり、12 月にまでずれ込んでしまいました。

補助事業の完了検査は、「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律」に基づき、補助事業の成果が補助金の交付決定の内容に適合するものであるかを確認することを目的に実施するものですが、併せて、現場フィールドを通じて県・国相互の情報交換の場であり、これらの結果を今後の技術力向上につなげる有効なツールであることは云うまでもありません。

全日程終了後に本局河川部内で「完了検査検討会」を行った結果、いずれの自治体も不適合となるような指摘事項はありませんでした。

適切に事業を執行するための各検査官からの提案事項を、技術的な留意事項として以下のとおり整理しましたので参考にして下さい。

【技術的な留意事項】

- 設計段階での調査不足は、施工段階で予期せぬ工法変更が伴う可能性があります。結果、事業費の増大や工期に影響を及ぼすことにもなりますので事前調査は確実に実施する必要があります。
- 各工事にはすべて設置理由、設計根拠が必要であり、コストパフォーマンスを考慮したものであるべきです。調査・設計・施工各段階で常に問題意識を持つ必要があります。
- 施工手順は品質、出来形の向上、手戻りのないようにするのは当然ですが、加えて、早期に事業効果が現れるよう工夫する必要があります。
- 現場の地形や状況に適応した施工は見た目に違和感がありません。自然と調和した構造物となるよう現場の変化に臨機に対応する施工管理が必要です。
- 工事に伴う関係機関との協議調整は場合によっては工期に大きく影響を及ぼしますので、早め早めの対応が必要です。
- 工事が完了すれば終わりではありません、その後の管理不備により事業効果が損なわれないよう維持管理が重要です。

以上、当たり前のことのようですが、今後、ますます公共事業の予算規模が縮小されるなか地域の安全・安心を確保するため、如何に効率的に、知恵を絞って進めていくかが重要となりますので、常に現場意識を持って事業執行に努めて行きたいものです。

最後になりますが、今年度の完了検査にご協力いただいた各県の皆様には、書類の整理、現場対応など、大変お世話になりました。この場をお借りして感謝、御礼申し上げます。

各　県　特　集

今回は、岩手県と秋田県の特集です。

いわての多自然川づくりの取組みについて　　岩 手 県

本県では、平成２年の「多自然型川づくりの推進」の通知を受け、全ての河川で多自然型川づくりを進めることを基本としており、平成８年度に策定した県の河川整備の基本理念や方策を示す「いわての川づくりプラン」に基づき、行政と住民が連携した、人と自然が共生する川づくりに取組んでいます。

これまで、一級河川北上川水系宮守川（遠野市宮守町）、二級河川新井田川水系雪谷川（九戸郡軽米町）、一級河川北上川水系砂鉄川（一関市東山町）などにおいて、当時の多自然型川づくりの考え方に基づき抜本的な大改修を行いました。これらの川づくりは、有識者からの助言を受けながら、周辺環境との調和に配慮するなど、本来の川の姿に着目した計画と施工に加え、計画段階から積極的に住民参加を促したことから、地域に愛される川として親しまれており、いわての川づくりに大きな影響を与えた先進事例となっています。

また、これらの多自然川づくりの技術、手法を踏まえながら、多自然川づくりアドバイザーからの助言を受け、「多自然川づくり基本方針」、「中小河川に関する河道計画の技術基準」に基づき整備した一級河川馬淵川水系元町川（葛巻町）、一級河川米代川水系矢神川（八幡平市）の河川改修が完成し、新しい多自然川づくりのモデルとして高い評価を受けています。

さらに、本県ではこのような現場での取組みと併せ、平成８年度より『いわての川づくり研究会』を立ち上げ、川づくりに関する情報共有、技術向上を目的に「多自然川づくり事例発表」、「有識者による講演会」等を開催しており、平成１８年度には「いわて多自然川づくり学校」を開校し、若手技術者の育成に取組むなど、「いわての川づくりプラン」の推進を目的とした取組みを継続して実施しています。



一級河川宮守川（遠野市宮守町）



二級河川雪谷川（九戸郡軽米町）



一級河川砂鉄川（一関市東山町）



一級河川元町川（岩手郡葛巻町）



一級河川矢神川（八幡平市）

一級河川北上川水系宮守川（遠野市宮守町）：小規模河川改修事業／広域一般河川改修事業（H4～H11）
河川局部改良事業（H6～H13）
二級河川新井田川水系雪谷川（九戸郡軽米町）：災害復旧助成事業、災害復旧等関連緊急事業（H11～H16）
一級河川北上川水系砂鉄川（一関市東山町）：激甚災害対策特別緊急事業、災害関連事業（H14～H20）
一級河川馬淵川水系元町川（岩手郡葛巻町）：災害関連事業（H18～H20）
一級河川米代川水系矢神川（八幡平市）：災害関連事業（H19～H21）

昨年 11 月には、これらの“いわての川づくり”について振り返るとともに、川本来のあり方、川と地域との関わりについて県民と共に考え、今後のいわての川づくりを推進、発展させていくことを目的に、盛岡市内で『いわての川づくりシンポジウム 2009』を開催しました。

講師に元町川の川づくりに計画段階からアドバイスいただいた九州大学大学院工学研究院教授　島谷幸宏　氏をはじめ、独立行政法人土木研究所自然共生研究センター長　萱場祐一　氏を迎え、「川と地域の関わり」をテーマに、元町川の現場講習会、川づくりに関する基調講演、川や地域で活動されている方々を交えてのパネルディスカッション等を行いました。

本シンポジウムを通じて、いわての川づくりや川を中心に住民の方々が地域で活動される様子について紹介することができ、川づくりの技術、地域との協働・連携について理解を深める機会として好評を受けました。

今後も、地域との対話・協働を深めながら、岩手の自然豊かな川を継承し、地域に愛される川づくりを推進していきます。



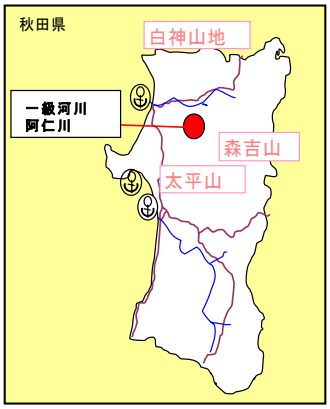
いわての川づくりプラン
いのちを育む私たちの川
～人の命を守り、生活を支える川とともに～
わが子と楽しむイーハトーブの水辺
～人々が集う文化と歴史の流れを大切に～
てんの恵み溢れる水回廊
～自然豊かで生き物と共生する川を誇りに～

「いわての川づくりシンポジウム 2009」パネルディスカッション
（ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ　九州大学大学院工学研究院　島谷教授）

阿仁川の川づくり勉強会について　　秋 田 県

１．はじめに

秋田県北部に位置する阿仁川は、秋田県北秋田市南部の梅森を源流とし、米代川の中流域に合流する河川延長 L=64.2km、流域面積 A=1,076k ㎡の一級河川です。



この流域は、平成 19 年 9 月 15 日から 18 日にかけ、停滞した秋雨前線の影響で、総雨量が 250㎜ を超える記録的な豪雨が発生しました。この豪雨により阿仁川は急激に増水し、死者 1 名、行方不明 1 名、床上浸水 230 戸、床下浸水 104 戸、農地浸水 1,528ha に及ぶ被害が生じました。当時は、約 1 万 3 千人に避難指示・避難勧告が出され、日常生活にも多大な影響を及ぼしました。

この災害に対して原形復旧では十分な効果が期待できないため、一定計画に基づき、抜本的な対策をおこなう『災害復旧助成事業』を実施することになりました。

２．地域に開けた川づくり

この河川改修の実施に先立ち、阿仁川沿川の町内会長で構成した「川づくり協議会」を設立し、『親しみのある身近な川づくり』と『安全で安心な人と川との関係づくり』をテーマとした話し合いをおこなってきております。

この活動の一環として実施している「川づくり勉強会」の今年度の概要を次に紹介します。



出水後の様子

３．川づくり勉強会

今回は、平成 19 年度の豪雨で最も被害の大きかった阿仁前田地区の小学生児童（高学年）を対象におこないました。

説明は①川のしくみ②H19 年豪雨はどのようにして起こったのか？③助成事業内容について（どのようにして洪水を防ぐのか？）④洪水の時はどうしたらいいのか。といった４つの観点からおこないました。

阿仁前田地区の児童達は、実際に今回の災害を経験していることから、勉強会では熱心に説明を聞いていました。

児童達からは「工事費はいくらかかっているの？」「阿仁川の工事の作業員は何人くらい？」など様々な質問が出されました。



阿仁前田地区児童との勉強会の様子

４．おわりに

事業は採択から２ヵ年が経過し、工事も順調に進んできております。これらの勉強会を通じて、阿仁川の整備に関し、地元住民の期待・関心が高いことが分かりました。

今後も積極的に意見交換をおこない、地元と協同で親しみのある川づくりを目指していきたいと思います。

トピックス

◆ 平内地区海岸完成式！　　岩 手 県

洋野町種市平内・川尻地区は、明治 29 年 6 月の明治三陸大津波、昭和 8 年 3 月の昭和三陸大津波で多くの尊い人命が失われるなど甚大な津波災害を受けました。その後、昭和 35 年には、チリ地震津波が襲来し、これを契機として翌年から昭和 41 年にかけてチリ地震津波対策事業により最初の津波防潮堤が築造されました。

平内海岸高潮対策事業は、このチリ地震津波対策事業で整備された津波防潮堤の嵩上げ等（嵩上高 5 m）を行い、大惨事となった明治三陸大津波の規模に対応出来るよう津波対策の向上を図ったものです。本事業は、国土交通省河川局所管の平内海岸と水産庁所管の川尻漁港海岸を一連の施設として国土交通省所管事業で整備し、昭和 61 年の事業着手以来 23 年余の歳月をかけて完成し、去る平成 21 年 10 月 20 日（火）に完成式を開催しました。

本事業では、防潮堤・水門による津波対策のほか、久慈消防署種市分署に設置された津波・高潮防災ステーションから津波発生時に、水門や陸閘を迅速に閉鎖出来るよう遠隔操作システムを併せて整備しています。



平内地区海岸　航空写真



完成式　テープカット

◆ 雪崩防災教室を三戸町で開催【12／16】　　青 森 県

青森県では、毎年本格的な降雪期を前に、県内の小中学生を対象として雪崩防災教室を開催しています。これは、子供のころから防災意識を身につけさせるとともに、先生方や家庭への波及的な意識向上効果を狙ったものでもあります。平成 8 年から実施しており、今回で 14 回目を数えています。

今年度は、三戸郡三戸町杉沢小中学校において、全校生徒 32 名を対象に実施しました。講師は、三八地域県民局の苫米地副課長が務め、雪崩防災に関するビデオを上映し、雪崩発生のメカニズムや杉沢地区にある危険箇所などを説明しました。折しも前日から降り続いた雪により、学校脇の斜面にも雪が積もっていて、その様子を見ながらの教室となりました。

説明を受けた生徒たちは、身近に潜む雪崩の恐ろしさに驚いた様子でしたが、「事前の確認や早期の避難が重要」と説く講師に一つ一つ返事をしながら、真剣な表情で配布された資料に目を通していました。





◆ 職員研修「実践河川講座」について　　宮 城 県

宮城県では、主に 40 歳未満の職員を対象として、人事異動により新たに河川・ダム行政に携わる技術職員の参加を必須とした職員研修「実践河川講座」を開催しています。

県内を主に一級四水系（北上川、鳴瀬川、名取川、阿武隈川）に区分し、一年一水系流域単位でテーマを設定し、治水事業の特徴を座学で学んだ後、自由に議論（雑談？）しながら現場見学を行うことが特色です。2 日の日程では、広い分野を網羅することは困難ですが、一つのきっかけとして以後興味を持って職務にあたることができるようなカリキュラム構成を事務局の河川課としては毎年悩みな

がら考えているところです。

今年度は北上川水系流域を対象として10月29日・30日と1泊2日の日程で、1日目は講義、夜の懇親会を経て、2日目は現場見学というカリキュラムで実施しました。

毎年、整備局仙台河川国道事務所・北上川下流河川事務所さんにも御協力をいただいており、他機関の職員からの講義・現場説明は本県職員の良い刺激となっています。この場を借りてお礼申し上げます。

今後も頭を悩ませながら、よりよい研修の実施に向け準備に勤しみたいと思います。



現場見学（旧北上川分流施設鴇波水門）

◆『新城川・馬踏川水防連絡会』の活動について　　秋 田 県

秋田市北部を流れる一級河川新城川・馬踏川の沿川市街地は、近年、家屋浸水や道路・農地冠水など度重なる被害に見舞われました。

このように頻発する河川の氾濫に対して、関係行政機関が連絡調整をおこない、迅速かつ効果的な水防体制を確立することを目的に、今年度『新城川・馬踏川水防連絡会』を設立し、平成２１年９月と１２月にそれぞれ開催しました。

両河川は、洪水被害を早期に解消するため、河川改修事業の促進を図るとともに、河床堆積土砂除去や支障木の伐木など維持管理工事も充実させております。これらのハード対策に加え、避難勧告や洪水発生時の情報連絡系統の強化など総合的な水防支援体制を構築させ、地域の方々の安全・安心の確保に努めてまいります。



新城川洪水状況



馬踏川洪水状況

◆ 「防災トップセミナー」の開催について　　山 形 県

山形県では、洪水や土砂災害時における適切な避難勧告や災害時要援護者の避難など、地域の避難体制整備を推進するために、県内の市町村長や防災関係機関の長等を対象にした「防災トップセミナー」を治水協会、砂防協会の共催により平成１８年度から継続して開催しております。

今年度は、１０月２７日に新潟県三条市長・國定勇人氏から『７・１３新潟豪雨災害から「災害に

強いまちづくり」を目指して』と題し、平成１６年７月１３日に同市で発生した水害を教訓としたご講演をいただきました。

被害につながった原因を分析し、避難勧告の具体的な発令基準や伝達手段の整備、災害時要援護者の援護方法のご説明をいただきました。

さらに、洪水発生直後に直面する課題として、大量に発生するごみの処理や、救援物資のための物流拠点の設置箇所についてまでアドバイスをいただき、まさに実体験に裏打ちされた説明に、出席した首長、防災関係者等にとって有意義なセミナーとなりました。

災害から人命を守るため、全国各地の貴重な体験を教示していただき、地域における防災体制の充実・強化を図るべく、今後も本活動を推進して参ります。

（参加者：市町村関係者、消防関係者、警察関係者、民間関係者、国関係者、県関係者　合計１２９名）



セミナーの様子

◆ 福島県砂防ボランティア協会と県の土砂災害危険箇所点検について　　福 島 県

土砂災害危険箇所等緊急点検は、震度５強以上の地震発生後、直ちに土砂災害の二次的な被害の防止を目的に実施することとなっております。

今回、有事に備え、福島県砂防ボランティア協会と県が合同で、平成２１年１０月２８日に土砂災害危険箇所の点検を行いました。

点検は、昨年発生した岩手宮城内陸地震、岩手沿岸北部地震に派遣された職員を中心に県から６名、砂防ボランティア協会２２名の協力により合計２８名で７班体制により、災害時要援護者関連施設を有する危険箇所を含め、約３５箇所の点検を実施しました。





◆ 第５０回東北地方治水大会の開催について　　福 島 県

平成２１年１０月３０日（金）福島県福島市で第５０回東北地方治水大会を開催しました。大会は、治水事業の重要性を再認識し東北地方における治水事業の一層の促進を図るとともに、国の予算確保などの要求を決議し、国などに提言することを目的として、毎年開催されるものです。

大会には、東北各県の市町村長、河川担当職員、来賓など、約２００名が参加しました。

記念講演として、日本大学名誉教授の中村玄正教授が「ふるさと福島の健全な水環境創りー猪苗代湖、

再び水質日本一を目指してー」と題し、猪苗代湖の水質汚濁傾向の解明や、水質日本一を目指した取り組みについて、講演されました。

続いて福島県河川整備課の長谷川潔課長から治水事業概要説明があった後、県内の河川事業に関しての意見発表があり、福島県小野町の右支夏井川について宍戸良三小野町長から、福島県いわき市の湯本川について、じょうばん街工房２１の寺主君男会長から発表を頂きました。

それぞれの河川において、洪水に悩まされた過去と治水事業の重要性、川と一体となったまちづくりを目指す取り組みや、地域の方々の川に対する思いなどについてお話を頂きました。

最後に、関係機関に対する要望の大会決議がなされ、今後これらの決議事項の実現と沿川住民の方々が安全で安心して暮らせる生活環境を確保するために、着実に治水事業を推進することを確認し、盛況のうち閉会しました。



開会あいさつ（福島県知事）



意見発表（小野町長）

整備局の動き　等

【連絡事項】

中小河川現地検討会の開催【地域河川課】

中小河川にかかるネック部（鉄道橋、堰等の構造物箇所）解消と河口閉塞に対する事業検討の一助となるよう、各県における先例的な取り組み事例や課題に対する検討事例について、現地を主体とした情報交換等を行い治水対策の推進を図ることを目的として、下記日程により開催します。

中小河川ネック部解消現地検討会　　２月１８日～１９日　岩手県盛岡市内

中小河川河口閉塞現地検討会　　２月２５日～２６日　宮城県仙台市内

編集後記

「個性の大地」は今号（第２９号）を以て、平成２１年度の発行目標（年間４号）を達成することが出来ました。これは平成１３年度の創刊以降３度目の達成であり、各県編集委員の皆様には心から感謝申し上げます。

３月には臨時特集号を発行すべく準備を進めております。本誌の目的である「各県の皆様と私ども整備局の補助事業担当者との情報共有」の理念に則り、読者の皆様の関心が高く且つタイムリーな情報を掲載する予定ですので楽しみにしていただければと思います。